

運転士のワークロード予測手法の妥当性向上

澤貢 佐藤清 水上直樹 鈴木綾子

多くの鉄道会社では、勤務時間、深夜勤務、1日の乗務時間等の基準を設け、運転士のワークロード（作業負担）に対する配慮がなされている。これらの基準は経験の積み重ねの中で方向付けられたものが多く、その根拠が十分とはいえない。これらの基準のもとで、運用効率が高く、ワークロードに配慮した乗務員運用が作成されることになるが、担当者の経験によると

ころが大きい。

そこで、運転士のワークロード管理を支援するツールとして開発された「ワークロード評価スケール」の改良を試みた。シミュレータ実験の結果をもとに、同スケールのワークロード得点に列車種別とダイヤ設定条件の影響を反映できるようにした。さらに、休養効果得点の新たな算出方法を組み込み、ワーク

ロード得点の判定基準も追加した。以上の改良を重ね、運転士のワークロード評価の精度向上とシミュレーション機能を拡充した新たなスケールを作成した。

(鉄道総研報告, 2008年7月号)

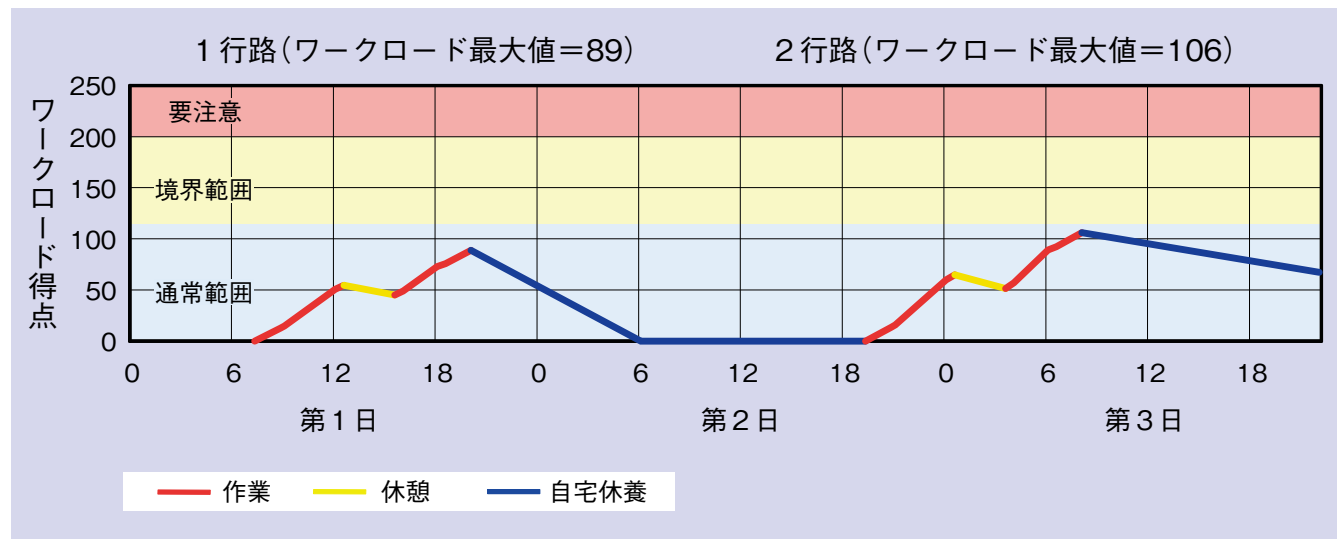


図 模擬行路によるワークロードの表示例